

BANKO 300th プロジェクト始動



沼波弄山翁 生誕三百年

平成30年(2018年)萬古焼創始者 沼波弄山翁の生誕300年をむかえます。

私たちは萬古焼の伝統と文化を伝え続けてきた先人達の努力に感謝し、萬古焼の遺産を未来への資産とすべく「BANKO 300th」のプロジェクトを立ち上げました。

「BANKO 300thプロジェクト」は、内田鋼一氏(BANKO archive design museum主宰者・造形作家・陶芸家)を総合プロデューサーに迎え「記念誌発刊」、「魅力展示」、「ふれあい」と名付けたワーキンググループを中心にさまざまな事業を展開、発信していきます。

自由で斬新な発想のもと、三重県内の人はもちろん国内外の人にも萬古焼をより身近に感じていただけるよう、進めてまいります。

私たちは、「BANKO 300th」事業を通じて、さらに400年、500年へとつなげていくことを目指します。

1 記念誌発刊事業



過去から現在の萬古焼と萬古焼を育んだ地域をより深く知ってもらう記念誌出版

「ここは ばんこ焼のまち！」

—萬古焼の町から魅力的なモノ・ヒト・コト—

2018年9月 発刊予定

編集・発刊 月兎社

2 魅力展示事業



萬古焼製品を通して、知られざる魅力を発信する展示

ばんこ いき
「萬古焼の粋」

—陶祖 沼波弄山から現在、未来に繋がる萬古焼—

開催日時：2018年9月29日(土)～12月28日(金)

会場：ばんこの里会館3Fホール

3 ふれあい事業



食・泊・工業など通じて萬古焼の魅力を体験、そして体感

- ばんこ焼行灯作りで町を彩る(市町民参加)
2017年11月から2018年12月随時
- 地域の魅力を旅するふれあい
(プチ&プレミアムツアー 2018年10月中旬)
三重県北勢地域各所



沼波弄山(ぬなみ ろうざん)

生年：享保3(1718)

～没年：安永6(1777)

江戸中期の古萬古焼の創始者。伊勢国(三重県)桑名の豪商。一説には「萬古屋」という陶器問屋ともいう。名は重長、通称五左衛門。幼時から風流を愛し、表千家6代宗左(覺々齋)、7代宗左(如心齋)に茶道を学び、寸方庵の庵号を持つ。桑名の邸内に窯を設け、楽焼風の軟陶を焼いていたが、元文年間(1736～41)に許可を得て、別宅のあった小向(三重県朝日町小向)に築窯した。土は小向の名谷山から取り、高火度の本格的な作陶を始めた。宝暦年間(1751～64)江戸の別邸のあった向島小梅に公儀の許可を得て築窯、将軍家御成先御用並びに御数寄屋御用も仰せつかり、しばしば窯場への将軍の御成もあったという。作品はのちに復興された有節萬古などに対して古萬古、あるいは号から弄山萬古、窯のあった所から江戸萬古、小梅萬古などと呼ばれ、「萬古」あるいは「萬古不易」の印が捺されている。当時の文人趣味にかなう煎茶器などの茶陶類が多く、内外茶陶の写し物と独特な中国風やオランダ風の更紗文や鳥獸文が異彩を放つ赤絵や銅青磁などがある。江戸萬古は安永6(1777)年弄山没後、番頭の安達新兵衛が差配したが、寛政12(1800)年ごろには廃絶した。

主催 | BANKO 300th実行委員会 協賛 | 萬古陶磁器振興協同組合連合会
後援 | 三重県・四日市市・菟野町・朝日町・桑名市(予定)
助成 | 公益財団法人 岡田文化財団



お問い合わせ

BANKO 300th実行委員会事務局

〒510-0035 三重県四日市市陶栄町4-8 ばんこの里会館内
TEL : 059-330-2020 FAX : 059-330-2021